博多港湾第42回定期大会報告

　博多港湾労働組合協議会第42回定期大会は、10月14日博多中央港湾福祉センターにおいて全国港湾労働組合連合会の真島新執行委員長を迎えて開催した。

　ここ数年のコロナ禍の影響で三年ぶりの通常開催を決定したものの、コロナの影響を無視することはできず、会場キャパの半数程度に参加人員を制限した70名規模での開催となった。

　大会では、現在の港湾においては多種多様な問題が山積みしているが、博多港湾としては、労働者不足に如何に対処していくかが現在も含め将来的な業界の存亡の危機に繋がる大きな問題であると認識している。博多港においては、博多港湾が中心となり、官業労で博多港雇用推進会議を設置し、リクルート動画の作成や九州圏内の新卒者募集セミナーの開催、高齢者の雇用促進や労働者供給事業の立ち上げ、女性労働者の雇用促進等行ってきたが、一定の前進はあったものの、問題解決に至るような効果が出ていないのが現状である。

しかし、女性労働者の雇用促進については、トイレや休憩所の設置を先行させたため、本格的な募集行動は出来ておらず、今後最も期待出来得る可能性を秘めており、施策を充実すべき点であると考えている。博多港湾は、博多港は働きやすい職場環境であると世間に認知された港を目指し、労働条件の拡充は当然目指すべき指標であるとしたうえで、更には多くの労働者が博多港での就労を希望し、離職を選択しない魅力ある港湾労働環境を目指していくとした議長挨拶があった。

　その後、真島委員長より、22春闘の経過報告と、自身の任期中は、「賃上げ・組織拡大・安全問題」の三点に注力していくとの力強い挨拶を受けた。博多港湾として、その方針を支持することを確認し、博多港湾の大会議案全てを全会一致で可決、新役員体制も確立し、最後に全体の団結頑張ろうで成功裏に大会を終了した。

　全国の各団体や仲間の皆様から暖かい激励のメッセージを頂きましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。